

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 熊本県・南阿蘇村

記入者名： 熊本県地域振興課 市原

総合戦略にみる地域の将来

- 村の将来像「誰もが住みたい住み続けたい南阿蘇村」/基本理念「村民が主体のむらづくり」
- 現在の人口：10,458人、将来：9,216人（2040年）、7,112人（2060年）（平成27年推計）
- 水力・風力・地熱などの地域資源を活用した自然エネルギーの利活用を促進
- 地域ブランド認定商品数 H26：12品→目標：35品（2019年）
- 体験交流事業（グリーンツーリズム等） 4回/年（H26）→目標：20回/年（2019年）
- 「きらめく地域づくり支援事業」（年間）8件（H26）→目標：35件（2019年）

②具体的なアクション

※誰が何をするのか、主なものをお書きください。

- ・草原景観の保全：野焼き再開など草原維持に向けた取組みを推進する（国（環境省）、県、村、公益財団法人）
- ・草原の新たな活用：草原の観光利用や資源化に向けた取組みを検討する（国、県、村、公益財団法人、民間企業）
- ・湧水を活用した特産品開発：「水前寺のり」や「やまめ」の養殖を進める（東海大学、村、地元住民）
- ・南阿蘇ブランドの確立：農畜産物をブランド化し、農家の収益を高める（村、JA、生産者）
- ・エネルギーの自給自足：再生可能エネルギーの導入を進める（村、地域エネルギー会社）

①目指すべき姿

※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

- 広大な草原景観があり、草原を源とする豊かな湧水がある
 - ・地震により休止している野焼きを再開させ、草原景観を維持したい
 - ・草原と地下水涵養の関係性を明らかにし、草原維持に向けた資金・人材を都市圏や民間から確保したい
 - ・草原を維持することにより、希少野生動植物の保護など、生態系を維持したい
 - ・防疫に配慮したうえで草原を観光利用することや草原をカヤ材として資源化するなど、草原の新たな活用を進めたい
- 湧水等を活用した特産品があり、都市農村交流も盛んに行われている
 - ・村内の湧水を活用し、特産品（水前寺のり、ミズゴケ、やまめなど）を開発したい
 - ・南阿蘇ブランドを確立させ、農畜産物の価値を高めたい
 - ・都市圏との交流を促進させ、交流人口や新規就農者を増やしたい
- エネルギーの自給自足に向けた取組みが行われている
 - ・小水力発電、地熱発電、風力発電、木質バイオマスなどの再生可能エネルギーを活用したい
 - ・災害に強いエネルギーシステムを導入したい

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値	実績値	単位
			R1	(2020年度末)	(2020年度末)	
環境	自然共生社会（草原維持）	野焼き面積	843.7	1,000		ha
		野焼きボランティア数（阿蘇地域全体）	2,045	3,000		人
	脱炭素社会	二酸化炭素排出量	75	70		千t
		再生可能エネルギー発電量	47,863	50,000		kw
経済	財源が充実する	活動に協力する企業数・団体数	18	20		社
	出費を防ぐ	地域内の再生可能エネルギー供給量	47,863	50,000		Kw
	地域外から稼いでくる	観光入込客数	345	500		万人
		地域ブランド認定商品数	23	38		品
	社会	人口維持	村外からの移住者数	38	45	
		新規就農者数	10	8		人
社会	行動が変わる	グリーンツーリズム交流事業	4	6		回
		環境保全に協力する企業数	6	8		社
社会	防災・減災が進む	指定避難所数	13	14		箇所

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値	目標年度	目標値	単位
			R1	(2020年度末)	2030-2050年度	(2020年度末)	
環境	自然共生社会（草原維持）	放牧頭数（阿蘇地域全体）	6,139	6,300	2030年度	10,000	頭
		草原面積（阿蘇地域全体）	19,682	19,682	2030年度	20,000	ha
	自然共生社会（動植物の状況）	絶滅危惧種生息数	85	85	2030年度	81	種
		脱炭素社会	二酸化炭素排出量	75	70	2030年度	50
	循環型社会	再生可能エネルギー発電量	47,863	50,000	2030年度	100,000	kw
		エネルギー代金流出額	24	20	2030年度	10	億円
経済	財源が充実する	活動に協力する企業数・団体数	18	20	2030年度	40	社
	出費を防ぐ	地域内の再生可能エネルギー供給量	47,863	50,000	2030年度	100,000	kw
	地域外から稼いでくる	観光入込客数	367	500	2030年度	700	万人
		地域ブランド認定商品数	21	38	2030年度	50	品
		宿泊・飲食サービス事業所数	200	250	2030年度	300	事業所
		耕作放棄地面積	59	50	2030年度	0	ha
社会	人口維持	南阿蘇村の人口	10,458	10,500	2040年度	10,000	人
		村外からの移住者数	38	45	2030年度	60	人
		新規就農者数	6	8	2030年度	10	人
	行動が変わる	グリーンツーリズム交流事業	4	6	2030年度	10	回
		環境保全に協力する企業数	6	8	2030年度	15	社
社会	防災・減災が進む	EV公用車導入数	2	4	2030年度	6	台

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

・草原維持に向け野焼きが継続・再開されることにより、広大な草原景観が維持され、生態系の保全及び観光客の増加・観光産業の活性化（宿泊・飲食サービス事業所数の増加）が期待される。また、草原を活用した新たな取組み（観光利用や資源化）により、地域内の新たな産業の創出及び雇用機会の確保も期待される。

・地域ブランド認定商品数が増加することにより、地域内農家の収益拡大や新規就農者の増加などにつながり、耕作放棄地の減少及び地域活性化が期待される。

・地域内での再生可能エネルギー供給量が増加することにより、エネルギー代金の地域外への流出を減少させ、災害時のエネルギー確保が期待される。また、防災・減災に向け指定避難所を拡充し、EV公用車の導入を進めることにより、主要な指定避難所での電源確保も期待される。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください